

令和2年度第2回広島市環境審議会 議事要旨

1 日時

令和2年11月24日（火）午後2時～午後3時50分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

西嶋 渉（会長）、田中 貴宏（副会長）、大浜 裕香、狩野 美紀子、寒川 起佳、高橋 恒治、鉄村 忠基、内藤 佳奈子、中山 幸子、長谷川 弘、林 武広、原 公子、村田 和賀代、森川 宣彦、若松 伸司（以上15名）

4 次第

- (1) 開会
- (2) 局長挨拶
- (3) 議事
議題 「第3次広島市環境基本計画（素案）」について
- (4) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

2名（報道関係者1名を含む。）

7 会議資料

- 令和2年度第2回広島市環境審議会 次第
- 令和2年度第2回広島市環境審議会 配席表
- 広島市環境審議会委員名簿
- （議事資料1）第3次広島市環境基本計画（素案）の策定について
- （議事資料2）第3次広島市環境基本計画（素案）

8 議事要旨

発言者	発言要旨
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回は新型コロナウイルス感染症の流行により、「第3次広島市環境基本計画（骨子案）」について書面により審議しているため、本日の議事は、「第3次広島市環境基本計画（素案）」についてである。それでは、事務局の方から説明をお願いします。
環境政策課長	<p>【議題 「第3次広島市環境基本計画（素案）」について説明】</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、事務局からの説明について、御意見、御質問等はないか。
寒川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常に幅広い面から検討されていていい計画だと思う。 ・ ただ、世界的に水が不足するであろうと言われており、水の値段が石油より高くなるだろうという説もある。そうすると、お金を持った人々が安く水が買える場所の土地を買って、その水を利用するということが近い将来起こる可能性が高い。 ・ 今の世の中は、お金が儲かるのであればどこへ行ってでも儲けるというグローバルゼーションである。日本人の認識でいけば、水が高くなっても、たくさんあるので欲しい人には差し上げるという認識だと思うが、このグローバルゼーションの中で、日本の水が外国資本の管理下に置かれると、この計画に書かれている素晴らしい目的が難しくなるのではないかと思っている。 ・ したがって、このような点を防止するために行政の方から何ができるか、あるいは法律から何ができるかを研究してもらい、この計画が達成されるよう、準備する必要があるのではないか。 ・ また、水の使用についてだが、日本は他の国から見ると宝の山であり、水道について業務提携の形で、施設の管理は行政がして、水の管理運営を安く受注するような企業が出てきている。もちろん、広島市の人件費に比べたら安くできると思うが、民営の企業の所有者は株主であり、株主はいかに儲かるかということを考えるため、初めは安くできても、徐々に費用を上げてきて、途中でやめさせてほしいと言ったときに、損失の補填をするように言われる。 ・ したがって、その契約も、単純に安いからということではなく、相手を見てどうすべきかを常に考え、水の保全をしていただかなければならない。広島市は水が豊かでおいしい水で、美しい川が流れているが、水の値段が高いのはなぜか、ということになるのは避けていただくよう、準備をこの中で行っていただきたいと思う。 ・ 幸いにも、広島市の水道局の方は、そういうことはさせないという意気込みのようなので非常に安心しているが、グローバル企業は、戦略的に圧力をかけて利益の追求を求めるので、専門家から意見を聞いて、どういう現状かを検討してもらい、法的にもそれが保全されるようにしていただきたい。 ・ 広島は本当にきれいで恵まれたところだが、恵まれているがゆえに水が豊富だという意識でいるといけない。水のないところから見ると広島市は宝の山である。水の管理・所有は公共的なものであるべきで、株式資本の支配下に置かれる

発言者	発言要旨
	<p>ものであってはならない。それは市民や国民の管理下にあるべきものである。環境問題の中にも文化を大事にして、日本人が豊かに住んでいける施策をお願いしていければと思う。</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 非常に大きな視点の御意見であるが、いかがか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 本計画では、「健全な水循環の確保」ということで記載しているが、水源を確保していくことは非常に大事なことだと思っているので、計画の中でどのように取り込んで書けるかというのは考えさせていただきたい。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> 大変分かりやすくすっきりとして、立派な計画になったと思う。特に、用語解説に関してもページ数が表示されていて分かりやすい。 一つだけお願いだが、47ページの表で区分、現状、目指すべき方向という記載があり、例えば不法投棄や自動車騒音のところの目指すべき方向が「増加」となっており、左側のそれぞれの区分の上側に「達成率」という言葉があるので「達成率を増加」という意味で使っているのだと思うが、「増加」というと量や数が増えるイメージがあるため、「達成率」という言葉に対応するのであれば「増大」の方がいいのではないか。また、「達成率」、「増加」という言葉を残すのであれば、「増加（達成率）」など、括弧書きにして下に書いた方が分かりやすいと思う。例えば、「光化学オキシダント」は、達成率0%だが、達成率を増加させるという書き方にすることや、「自動車騒音」も、この14万3千という数を増やすということであれば、その達成数を増加させるという書き方にする、その下の「鉄道騒音」についても、騒音が増加するような印象を受けるため、括弧書きで達成率を増加と書くなど、この3か所に関しては、工夫して書いた方がよい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 今御指摘いただいた47ページだけではなく、全体が同じつくりになっているため、もう少し丁寧に御記載いただければと思う。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> 各所に指標等が記載されているが、数値目標などは今後検討して記載することになるのか。一番最後（54ページ）にPDCAの図が載っているが、ここに「指標の点検」とあるので、今後検討するのか確認したい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 本計画については、大綱化を図っているため、具体的な数値目標を掲げることは考えていない。具体的な数値目標については、個別の行政計画で設定していくことになる。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> そうすると、「指標の点検」というのは、目指すべき方向のことを示しているという解釈でよいか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 指標については、あくまでも目安であり、現在どういう方向に向かっているかを確認してもらうため、現在の計画からこのような形で記載させてもらっているが、その辺りを踏まえながらチェックを行っていくことになる。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> そこは気になる方もいらっしゃると思いますが、本計画に記載しているのは方向性だけなので、少しでも改善すればよいのか、それとももう少しやらなければならないのか、そのような評価はPDCAの点検の際に少し難しいとは思

発言者	発言要旨
	<p>うが行っていく、本計画は大きな計画として方向性を示して、下位の計画や実際の施策の中では、もう少し具体的な数字を持って取り組んでいくという説明だったと思う。それも含めて、中間年などでチェックしなければならないと思うので、その時にはまたお示しいただくということによいか。</p>
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ PDCAと指標の話については、会長のおっしゃるとおりだと思うが、そのような指標の扱い方であれば、そのことを本計画の中で書かないといけないと思う。そうしないと、本計画を読んだ方は同じようなことを考える。 ・ あと、指標のところに、「参考となる」という、非常に微妙な表現をしている。多分苦勞されてこういう表現にされたと思うが、もう少し丁寧な説明を加えてはどうか。 ・ また、コロナ禍の話であるが、まだ先が見えない中で、どの程度本計画に位置付けるかというところであるが、35ページに突然新型コロナウイルスの話が出てくる。この計画の計画期間が5年ということであるが、今後コロナ禍の位置付けがウイズになるのか、アフターになるのか、一過性のものになるのかはわからないが、最初の背景の中で、コロナ禍についても少し触れてはどうか。 ・ また、28ページの第4章の第1節を「生物多様性地域戦略」に位置付けると書いているが、他の部分の他の計画や戦略との関わりは4ページの図2に示しているだけなので、この節のみ戦略と方針がイコールという扱いにすると、座りが悪く、少し特別な感じがする。 ・ 逆に考えると、既にある環境分野に関わる計画などが、他の節とイコールとなるような位置付けもあるのかと考えてしまうが、この節の位置付けについて教えてほしい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4章第1節については、私もあまりに他の部分と違っていると思っているが、ご説明をいただきたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、「生物多様性地域戦略」がどういうものかを説明させていただければと思うが、これは都道府県や市町村がそれぞれの区域の自然的社会的条件に応じて策定する、生物の多様性の保全と持続可能な利用に関する基本的な計画であり、「生物多様性基本法」で、都道府県、市町村は、生物多様性地域戦略を定めるよう努めなければならないというようになっている。 ・ 努めなければならないということなので、必ず市で策定しなければならないわけではないが、できるだけ策定した方がよいということである。この地域戦略を策定する場合、個別の計画として策定するという方法もあるが、各計画の中に内容的に地域戦略を踏まえたものがあれば、その部分を地域戦略として位置付けることで、策定に代えるという方法も取ることができるため、今回、広島市では、地域戦略を個別に策定するのではなく、今回の環境基本計画の改定で、生物の多様性を確保するという記載を加えることで、地域戦略として位置付けるという手法を取らせてもらっている。 ・ 従来からこの自然環境に関する施策の方針の中で、生物の多様性の確保に向けた取組を行ってきたところだが、SDGsに、生物の多様性に関する項目として、

発言者	発言要旨
	<p>「14 海の豊かさを守ろう」や「15 陸の豊かさも守ろう」といったゴールが設定されるなど、世界的に生物の多様性の確保が課題となっているということもあり、今回、この環境基本計画の中に生物多様性地域戦略を位置付け、生物の多様性の重要性の記載を深めるということにさせていただいた。</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> • 今のは、地域戦略の位置付けの経緯ということだが、よろしいか。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> • 承知した、先ほど、逆にという言い方をしたが、例えば第4節が地球温暖化に関する内容だが、これについては、環境分野の行政計画として、地球温暖化対策実行計画があるが、本計画に位置付けるのは少し大胆過ぎるという考えか。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> • これは市の考えになるため、強く言うわけではないが、本節の書きぶりが少し細か過ぎる。基本的なことを書かなくてはならないところを、遺伝子の多様性など、一般市民が見たときに分かりにくいことが書かれているため、注釈に回すなどしていただき、内容があり過ぎるとそれも問題だと思うので、あまりこの節が全体のバランスを崩すようなことがないように、御検討いただければと思う。 • あと二つ御意見をいただいております、新型コロナウイルスのことをどう扱うかということだが、これは意見だが、35ページの記載のことで、これからどの程度環境問題として入ってくるのかもわからないということもあるため、ここに部分的に入れるよりは、こういう問題が起き、それが環境の施策に影響を与えるというのは当然あり得るので、最初の方で、今後の動向を見ながら臨機応変に対応していくというようなことを書いた方がいいのではないか。
寒川委員	<ul style="list-style-type: none"> • 科学的に考えると、年間の死者も含めて、新型コロナウイルスよりもインフルエンザの方がはるかに怖いので、コロナウイルスのことは環境問題として本計画に入れなくてよいのではないかと思う。 • テレビを見ると、コロナは怖いと皆が言うが、ただ怖いだけで、インフルエンザでの死者の方が多いのに、インフルエンザに関しては何も言わない。そういったことを考えると、環境問題にコロナは入れなくていいと思う。 • ただ、SARS（サーズ）やペストが蔓延すると、これは広島市だけの問題ではない。今回の新型コロナウイルスは幸いにも日本の死者は少ない。今感染者は少し増えてはいるが、それもPCRのやり方によって全然違うし、インフルエンザの感染者は非常に減っている。そういったこともあるため、インフルエンザへの対応や風邪への対応ということは環境問題から外した方が理知的だと思う。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> • このことについて、事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染症対策については、まず、26ページの危機管理等の視点で、新型コロナウイルスという言葉は使っていないが、「新たな感染症」という記載をさせてもらっている。これは、まだ新型コロナウイルス感染症と気候変動などの環境問題の関連性というのがはっきりとは示されておらず、また、今後同様の感染症が起こる可能性もあるため、「新型コロナウイルス」という名称を使わずに、「新たな感染症」という記載としている。 • また、35ページの記載だが、これは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う

発言者	発言要旨
	<p>生活への影響ということで、実際に影響が出てきているため、自然と触れ合う機会の増加が見込まれるということ、新型コロナウイルス感染症という言葉を使って記載している。</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の記載のウエイトがどの程度必要かという話はひとまず置いておいて、皆様がマスクをしているというのもそうだが、生活様式が変化しているというのは事実ではあるため、そこは環境の問題ではないが、非常に強い関係性があるということで35ページには記載したということである。 ・ もう一つは、指標についての御意見があったが、施策の方針にそれぞれ指標が書かれていて、47ページで説明すると、「生活環境の保全に関して参考となる主な指標等」という書き方がされており、この「参考となる」という言葉が少し分かりにくくなっていると思う。健全で快適な生活環境を的確に表す指標にはなっていないものがあるため、そこを「参考となる」という書き方をされているのではないと思うが、ここはもう少し丁寧に説明した方がよい。 ・ この節で説明すると少し分かりにくいので、36ページを見ていただくと、「豊かな自然環境の保全に関して参考となる主な指標等」となっている。森林面積は指標として当てはまるかも知れないが、森林ボランティアの数や農業従事者など、必ずしも自然環境の保全の指標として完全に当てはまらないものも含まれており、他に入っていた方がよい指標もおそらくあるが、数値化しづらいため、数字として表すことができるものを記載したという意味だと考えている。 ・ そうであれば、ここにある指標が達成できればよいという話ではなく、数値化できないものがたくさんあり、その中で、参考として、数値化できるものを記載していると思うので、「参考となる主な指標」という言い回しの意味をどこかで記載し、達成できればよいということではないが、数値化できるものについて記載したなど、そのような記載はあった方がいいのではないと思うが、いかがか。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現計画の「第2次広島市環境基本計画」の前の計画は、一般的な実行計画のように、施策があり、数値目標があるという構成にしていたが、現計画の策定の際、内容の大綱化ということで、審議会に諮り、御意見をいただいた。その時に、事務局の案として、数値目標を全く記載しないということで当初お示ししたが、それでは計画としてあるべき方向に向かっているかどうか分からないのではないかと御指摘をいただき、「参考となる主な指標」という形でお示しさせていただいたという経緯がある。 ・ その辺りの説明が不足ということであるため、もう少し丁寧に記述を加えないといけないと思うが、この指標は、あくまでも方向性であり、PDCAサイクルの中でその方向性について環境審議会にかけさせていただき、また、環境に関わる事項について議論するための内部の組織横断的な会議である「環境調整会議」にもかけ、ホームページ等に掲載し、市民の皆様にも見ていただくというような形をとっているため、記述は少し丁寧にさせていただこうと思うが、参考となる主な指標ということで落ち着いている。この指標によってすべての環境の動

発言者	発言要旨
	<p>向を網羅できるというものではないとは思っており、中々内容と合致しないというものもあろうかと思うが、関係部局と協議した中で、このように示しているという経緯もあるため、本日いただいた御意見を踏まえ、丁寧な説明にしていこうと考えている。</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> • すべての数字の動向をここに書くように言っているのではなく、例えば第4章第1節で説明すると、前半で生物多様性のことがたくさん書いてあるが、生物の多様性に関する指標については、ほとんど入っていないように見える。生物の多様性の状況をどうやって示すのかは、非常に難しいところであるため、数値化できないということはよく分かる。ただ、見た人に疑問が残ってはいけなないので、そのあたりの経緯について記載するなど、少し考えていただきたいということで、言わせていただいた。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> • 先ほどの発言に追加だが、以前から議論があるが、例えば光化学オキシダントについては、環境基準は達成されていないが、いろいろな角度から見ると、以前より改善されてきている。高濃度の発生率などの数字は非常に改善されてきているが、この指標の数値だけ見ると、0%ということで、非常にネガティブな印象を受ける。 • そのため、1行で書くのは難しいかもしれないが、例えば、目指すべき方向としてその達成率に触れ、高濃度の発生の抑制について追加で記載するなど、基準値そのものが達成か非達成かだけではなく、これまでの努力がみられるような、対策を進めていけば成果が反映できるような指標とした方がよい。 • また、36ページと47ページに似たような表があるが、36ページの指標では、定量化できる数、量、面積といった指標が多いため、増加、減少という表現で納得できるが、47ページでは、達成率、排出量、資源化率など、いろいろな単位が混ざっている。それを一括して増加・減少という言葉で表してしまうと、少し乱暴な気がするので、可能であれば、「参考となる指標等」というタイトルの中で説明していただくなど、丁寧に説明を入れてもらえるとわかりやすくなると思う。加えて、広島市としてやってきたこれまでの対策の効果が程度目に見えるような形での目指すべき方向性を入れたほうがよい。これは意見である。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> • そこは少し検討が必要だと思うので、即答は難しいと思う。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> • 25ページの第3章、「総合的・横断的視点等」の第1節の「社会的状況の変化への対応」のところを読むと、インフラの老朽化や住みづらさがこれから増加することが予想されるというような記載があり、まちづくりの話をしていると思うが、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」が入っていない。何か理由があるのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> • 委員のご意見を踏まえ、追加を検討したい。
田中副会長	<ul style="list-style-type: none"> • 御説明いただいた素案について4点ほどあるが、二つに分けてお話しさせていただければと思う。

発言者	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の二つは、両方とも適応の話である。気候変動への適応の話があり、緩和と適応を分けて整理されたということで非常によいと思った。その上で、51ページの参考となる指標の「地球温暖化対策の推進」のところに、緩和に関する指標が並んでいるが、ここに適応に関する指標が入ってもよいのではと思った。先ほど話があった生物の多様性に比べて指標にしやすいと思うので、適応の指標も入っていると、本計画を見る方に目指すべき方向性が伝わると思う。 ・ 二つ目だが、24ページの基本目標の4番目の「地球環境の保全への貢献」というところで、適応に関してあまり記述されていないと思うので、今後目指すべき基本目標の一つとして、適応の話を記述されるといいと思った。前半二つが以上である。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御指摘のように、確かに適応に関する指標がないため、検討させてほしい。 ・ 24ページの「地球環境の保全への貢献 ～脱炭素社会の構築～」のところであるが、ここは小さくくりで整理をしており、現計画と大きく変わっておらず、御指摘のとおりである。今回、適応策については、48、49ページの「地球温暖化対策（緩和策と適応策）の推進」で記載しているが、24ページについても併せて検討したいと思う。
田中副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。次の二つだが、そのうち一つは先ほど長谷川先生が御指摘されていたところである。28ページについて、私も少し書き方が気になっており、御説明を伺い納得したが、そのまま読むと違和感がどうしてもあるため、先ほどの説明の内容を丁寧に書くとよいと思った。 ・ また、ここで供給サービス、文化的サービスなどの語句の説明が出てくる。普通に考えると、後半の用語説明のところで記載すべきものがこの部分に入ってくるのが少し気になった。事務局の考えは理解したが、そうであれば、この青枠で囲われている部分がどのような位置付けなのかというのを明示すると違和感も大分緩和されるのではないかと思った。これが3点目である。 ・ 4点目に関しては、私の個人的な意見ではあるが、25ページについて、環境の話はどうしても総合的・横断的になるので、それを視点として整備しようという考え方は非常に共感し、よいと思った。その上で、先ほど御意見があった25ページの2番に関係すると思うが、例えば緑のまちづくりというのが本計画に書かれている。何かものを作るということは、それが地球温暖化にも影響し、生物多様性にも影響し、そこで生活する人の生活の質にも影響するということがあるため、物理的にもまちづくりがいろいろなところに波及効果があるというような、まちづくりの視点のようなことが書かれているとよいのではと思う。要は、ものを作るということはいろいろな効果があるということが書かれているとよいのではと思うが、最後に関しては個人的な意見として聞いていただければという程度である。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 28、29ページの書き方については検討したいと思う。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常に気になっていることが一つある。31、32ページの、「生物の多様性の

発言者	発言要旨
	<p>確保」、「緑の保全」という項目がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近イノシシの被害がいわゆる市街地にも出てきている。私自身も実はイノシシの被害に遭っている。イノシシやシカも生物の多様性の一つだと思うが、「緑の保全」と「生物の多様性の確保」に両方獣害について書いてあるところがあるが、これも環境の非常に重要な要素だと思うため、少し書きぶりを、そこに対する配慮というのが少しあってもいいのではと思う。多分お困りの方も多いと思う。これは希望である。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 人間と自然との共生をどう考えていくかという話だったと思う。そこは本計画に入れ込めるかはわからないが、ご検討いただくということではどうか。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> 27ページの第3章の「総合的・横断的視点等」の「第2節 環境配慮指針」だが、座りが悪いというか、それを行うための道具立てを少し入れ込んでしまっている。これは環境アセスメントの話で、「環境配慮指針」というガイドラインも作っているのだから、それを参考にしてほしいということだと思うが、この第2節の位置付けというのが少しそぐわない。基本的な考え方を本計画で記載している中で、ここに指針の記載があるため、もう少し書きぶりを工夫した方がよいと思う。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> この部分のみ事業の推進について記載しているように見えるが、事務局の意図としてはいかがか。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> この「環境配慮指針」というのは、御指摘のとおり環境アセスメントについて記述したものだが、現計画の前の計画の時に、ゾーニングとして、この環境配慮指針を使用して市の区域を12の地域に区分し、現状や取組の方向性を記載していた。環境配慮指針は、環境影響評価審査会で長年議論をいただき、そのような指針となっている。 この指針は市の環境影響評価条例に基づいて定めており、この指針が変わると、本計画中の環境配慮指針と違ったものになってしまうということがあり、ここで配慮指針として紹介しているというところがある。どのように変えられるかというのは、現計画の策定時にも御指摘をいただき、説明の上、このような書きぶりで落ちついたというところではあるが、もう少し丁寧に記述を加えられるか検討したいと思う。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> そういった事情があつてここに記載されたということであると思うので、重要なことだと思うが、どういう言い方にするかというのは、また御検討いただければと思う。
狩野委員	<ul style="list-style-type: none"> 関係ないかもしれないが、広島市の絶滅危惧種は動植物で何種類くらいあるのか、分かれば教えてほしい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 市内の絶滅危惧種だが、絶滅した可能性が高い生物として19種、絶滅の危険性が高い生物として80種となっている。少し古いデータだが、大きな変化はないと思う。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> その数字は、36ページの指標のところに書いてある269種と比べてかなり少ないと思うが。

発言者	発言要旨
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅する可能性が高い種が、先ほど言った80種だが、絶滅のおそれのあるものが269種である。
環境保全課長	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅のおそれのあるものを絶滅危惧と準絶滅危惧、軽度懸念、情報不足に分類してそれぞれ種を挙げており、その総数が269種となっている。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日御欠席の柳下委員から、本素案に関してご意見を頂戴しているため、事務局から御紹介をお願いします。
環境政策課長	【柳下委員からの御意見について紹介】
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日この御意見について細かく見ていくことはできないため、本日皆様からいただいた御意見と柳下委員からの御意見も含め、会長である私が預かり、必要に応じて事務局と相談させていただきながら、この「第3次広島市環境基本計画(素案)」についてまとめさせていただきたいと思うが、よろしいか。
各委員	【異議なし】
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、これで本日の会議を終了する。長時間にわたり御審議いただき、感謝する。